

市算研 2017 革新
算数研究の進展への期待

先月14日に新しい基準案が公表されました。

今回の学習指導要領・算数は、これまでの中教審の審議内容を受けて、三つの柱からなる資質・能力に基づく教科目標および学年目標や大幅な領域の変更、内容毎に身に付ける知識・技能と思考・判断・表現力の明示、さらには低学年4項目、高学年3項目からなる数学的活動と、従来の学習指導要領とは異なるものとなりました。教科指導の在り方を内容ベースから資質・能力ベースに転換し、それに伴って指導内容についても思考・判断・表現力にまで踏み込んで示し、その理念を数学らしい学びで実現していこうとする方向性が学習指導要領という形で示されたわけです。今後、約1か月間のパブリックコメント期間を経て、月末には正式に告示され、その後、夏には解説が公表される予定です。

本研究会ではこの一年間、新基準案で示された方向や内容等を先取りして実践研究に取り組んできました。三つの柱からなる資質・能力で目標分析を行ったり、丁寧に学習展開を描くことで算数の問題解決の質的向上を図ったり、さらには思考・判断・表現力等の視点から学習成果を分析したりしてきました。その成果や課題については、2月の冬季セミナーの中で報告および討論が行われ、そこでは新基準が目指す方向に向かって歩むことができた1年であったこととともに次年度に研究すべき課題を明確にすることができました。それらは、本日の3月総会で提案された次年度の研究計画に反映されており、一歩先を見据えた新基準案の理念実現に向けた研究を推し進めていくことになると期待しています。

昨年春に示した「ACTION PLAN 2016」。新たな算数教育の実現への革新を目指して作られました。研究内容では、教師に教科観の転換を求め、算数の教科指導の価値を見つめ直そうとしてきました。また指導方法では、児童を主語にした真正な学習展開を求め、問題解決学習の在り方を問い直そうとしてきました。さらに研究方法では、形式化・形骸化しつつあった研究体制や研究会の在り方そのものに変化と改善を求め、会員研究会の運営スタイルや役員会の在り方を新しくとらえ直すとともに、夏季・冬季セミナーの実施などによって研究成果の公表方法および情報発信の在り方を抜本的に見直そうとしてきました。そういう意味では、この1年間は革新の連続でした。当然のことながら、十分な成果を得るまでには至っていませんし、今後、軌道修正や追加的取り組みを必要としていることも山積しています。それらを改めて整理して、新年度の4月末に提示予定の「ACTION PLAN 2017」では、実効性のある研究プログラムを明示していくつもりです。「研究」の結果によって見えてきた「研究」に丁寧に取り組んでいくことが大切だと考えています。

次年度は新しいチームに研究運営を委ねます。新メンバーが、今年度踏み出した「革新」のページに、更なるページを書き連ねていってくれることと確信しています。市算研が常に算数教育のフロントランナーとして研究を深め、次代を生きる子供たちに素晴らしい算数の授業実践を提供し続けることを期待しています。会長職は1年間という短い期間ではありましたが、私にとって刺激的な時間でした。最後に…会員諸氏に深謝。(2017/03/01)